中学生のメッセージ2013

第35回少年の主張三重県大会

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団

はじめに

昭和54年の国際児童年を記念して始めた「少年の主張三重県大会」は、毎年、多くの方々に支えられ本年度で35回を迎えました。

今年度の全国の応募者数は565,500人、三重県からは7,788人が応募してくれました。

三重県では、８月25日(日)に大会が開催され、最終選考に残った13名が緊張の面持ちで、しかし熱く自分の主張を発表してくれました。家族のこと、未来への夢や希望、あるいは日常生活の中での様々な出会いや体験を通じて感じた思いなど、身近な話題から時事問題に至るまで主張の対象はさまざまですが、中学生らしい感性で切り取られたエピソードや問題点へのアプローチなどは、どれもこれも大人が見過ごしていたり、忘れてしまっていたりしたみずみずしい感性を思い出させてくれるものでしたし、堂々とした発表ぶりも含めて中学生はやるなあとうならされてしまいました。

三重県では、第31回大会からこの大会を「中学生のメッセージ」と称して、一つの思いを込めて開催しています。大会は､優秀な主張の発表に加えて､開催地の中学生によるポスターデザインや、大会の受付、司会進行、案内係、そして吹奏楽などの発表で参加します。そのことで、大会が、大人と中学生の心通いあう場としてより盛り上がるようになるのです。今年は紀北地区での開催でしたが、運営を支えていただいた青少年育成関係の皆様はじめ多くの大人たちが中学生を温かく見守ってくださいました。すがすがしく心に染み入る大会になりました。改めて御礼申し上げます。

子どもや若者たちの健やかな成長は社会全体の願いです。しかし、社会にはその成長が懸念される課題も少なからずあります。しかしまず、身近な大人たちが子どもたちの気持ちに触れ、見守り育てるという心持になることが育ちの基盤となるはずです。

ささやかですが、そのような思いを込めて、今後も「中学生のメッセージ」をより多くの中学生と大人が参加し交流する大会として発展させていきたいと思っております。

どうか、引き続き地域の皆様方の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年２月

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団

理事長　太 田　栄 子

目　次

はじめに …… 1
目　　次 …… 2
大会写真 …… 3
最優秀賞　「ペット」について
　　四日市市立富洲原中学校３年　山本（やまもと）　桃子（ももこ）…… 6
優 秀 賞　報道が伝えなければならない「今」
　　紀北町立三船中学校　３年　玉置（たまき）　琴音（ことね）…… 8
　当たり前のこと
　　セントヨゼフ女子学園中学校　３年　長谷川（はせがわ）　葵（あおい）…… 10
　ネット社会の中の「言葉」
　　紀北町立三船中学校　３年　森岡（もりおか）　香帆（かほ）…… 12
優 良 賞　シェアすることで世界は開く
　　津市立一身田中学校　３年　青木（あおき）　優芽（ゆめ）…… 14
　社会に眼を開く　～新聞を出発点として～
　　セントヨゼフ女子学園中学校　３年　赤塚（あかつか）　叶実（かなみ）…… 16
　眼鏡をかけるようになって気付いたこと
　　四日市市立羽津中学校　２年　市川（いちかわ）　美貴（よしき）…… 18
　生きる
　　四日市市立三重平中学校　２年　伊藤（いとう）　美夢（みゆ）…… 20
　自分を変えてみんなを変える
　　鈴鹿市立鈴峰中学校　２年　岩﨑（いわさき）　彩香（あやか）…… 22
　心の病なき未来へ ～摂食障害を乗り越えて～
　　紀北町立潮南中学校　３年　片岡（かたおか）　聖（ひじり）…… 24
　私を変えてくれた生徒会
　　鈴鹿市立白鳥中学校　３年　川北（かわきた）　真子（まこ）…… 26
　携帯電話について
　　亀山市立関中学校　３年　倉城（くらしろ）　有稀（ゆき）…… 28
　「おかえり」はどっちが言う
　　鈴鹿市立千代崎中学校　３年　宮崎（みやざき）　圭織（かおり）…… 30
地域優秀賞／学校奨励賞…… 32
審査基準・各審査委員（名簿）…… 33
各審査委員（講評・感想）…… 34
開催チラシ…… 39
実施要項…… 40
内閣総理大臣賞の掲載…… 42
協賛企業・団体（紹介）…… 44

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。

大会写真

審査委員と記念撮影中の発表者のみなさん

大会参加者のみなさん（発表者と演奏者）

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
太田　栄子 理事長による開会の挨拶

紀北町教育委員会　安部　正美　教育長による
歓迎の挨拶

紀北町立赤羽中学校、紀北中学校の生徒による司会

尾鷲市立尾鷲中学校吹奏楽部による熱の入った演奏

受　付

表彰式

演奏・司会・大会運営にがんばってくれた中学生へ感謝状の授与

齋藤彰一審査委員長(みえ次世代育成応援ネットワーク代表)による講評

最優秀賞
「ペット」について

四日市市立富洲原中学校３年
山本桃子（やまもともも こ）

私は動物が好きです。特に犬が大好きです。私は、できることならたくさんの犬を家で飼いたいのです。しかし、自分の体質上、犬などの毛のある動物には向いていないらしく、多くを飼うことは難しいのです。私のように家で犬を飼えない人は多いと思います。けれどもし、今これを聞いている人の中に犬を飼いたいと思っている人がいたら、一度、行ってみてほしい場所があります。保健所です。保健所には、家庭の事情で世話をすることが難しくなって引き渡されたり、捨てられてしまった犬が多く集まっています。そのように集められた犬たちが、どうなってしまうかは、皆さんの中で知っている人もいると思います。保健所で保護された犬達はみんな、不安な、おびえた目をしているそうです。そして誰かがオリに近づくと、飼い主が迎えにきたのかと思い、喜ぶ…という記事を読んだことがあります。こうして犬たちはいつまでも飼い主を待ち、自分達がどこにいるのかもよく分からない内にガス室へと連れていかれ、殺されてしまうのです。

今、ペットを飼う人が増加しています。犬や猫、最近ではその他にも様々な種類の動物を飼っている人もいるようです。しかし、それと同時に、小さい時期だけかわいがって、成長して大きくなると、世話が面倒になってしまい、簡単に捨ててしまう人も増えてきているのです。そうして捨てられてしまう犬が増えると、保健所に行く犬も増え、つまり殺されてしまう犬が増えてしまうのです。

小さい時の動物は、とてもかわいらしく、特にペットショップなどで見ている時にはこちらに寄ってきたりと、その瞬間に「欲しい！」なんて思ってしまう気持ちは私もよく分かります。けれど、そこで直感でよく考えもせず飼ってしまうと、飼われた動物は悲しい運命をたどることになってしまいます。「ペット」だって一生懸命生きている、命なのです。食べ物を食べて、トイレもする。ただ、「欲しいから」というだけの中途半端な理由で衝動的に飼ってしまうと、体が大きくなった時まで世話を続けていられるかどうか分かりません。

これは、私の勝手な考えであり、実際には同じような理由で飼っても、最後まで世話を続ける人もいます。私が伝えたいのは、無責任な気持ちでペットを飼うのではなく、先のことまで自分がきちんと世話ができるか、自分に１つの命を背負うことができるかどうかをよく考えて、最後まで精一杯大切にしてあげてほしいということです。そして、それを家族などと話し合った結果、もしまだ自信がないのであれば、その場から離れもう一度考え直してみ

●部活動や学校外活動	音楽部・生徒会
●好きな科目	英語・国語
●好きなことや好きなもの	観劇・動物園・水族館に行くこと
●将 来 の 夢	水族館の学芸員

てください。ペットも人間の子どもといっしょで、最初は私たちが教えなければ何も分からないのです。つまり、ペットを飼う私たちは、その子の親と同じ役目をすることになるのです。私は、動物もかわいがられた時のことは覚えていると思います。だから、大きくなって、人間がほったらかしにしていると、「ああ、この間まであんなにかわいがってくれたのになぁ」と感じているのではないでしょうか。

私は先に述べたような理由で、飼ったり保護したりすることはできませんが、そのような動物の保護活動をしているＮＰＯなどの団体に積極的に協力したり、おこづかいの中から募金をしたり、自分のできることをひとつでも多くしていきたいと思います。

そして、皆さんも、いざペットを飼おう！という時には、小さくなくてもいいのなら、できるだけ、保健所などの殺されてしまう犬を引きとって、救ってあげてください。そして、どんな動物でも、家族として、たくさんの愛情を注いであげてください。これが、私の主張です。

（第35回少年の主張全国大会　国立青少年教育振興機構努力賞）

優秀賞

報道が伝えなければならない「今」

紀北町立三船中学校３年
玉置琴音（たまきことね）

２０１２年８月２０日、ジャーナリストの山本美香さんがシリア・アラブ共和国で銃撃戦に巻きこまれて亡くなりました。テレビでは山本さんについてのニュースが数多く報道されていました。ですが、私はそのニュースたちに納得しませんでした。そして、腹が立ちました。なぜかというと報道されていた内容ほぼ全て、

「ジャーナリストの山本美香さんが亡くなった。とても悲しい。戦場は危険な所。」など、誰でも思うような単純な内容だったからです。その時、私は、

「本当に山本さんが伝えたかったことが伝わっていない。」

と思いました。山本さんは、きっと戦争は恐ろしいということはもちろん、そんな戦争の中でもたくましく生きぬく人々の美しい姿を伝えたかったのではないかと私は思います。でも、山本さんが本当に伝えたかったことがそのニュースからは、ほとんどの人には伝わっていないと思いました。それではニュースで報道する意味がありません。記者やキャスターが伝えたいことを報道するのではなく、山本さんなどが伝えたかったことを、そのまま伝えるのが、ニュースや記者の本当の役割ではないかと思います。

もし、私が山本美香さんについてのニュースを報道できる立場であれば、山本さんが本当に伝えたかったことを報道しようとすると思います。山本さんが撮った写真や映像を放送して、命を落とすような危険な状況に自ら飛び込んでまでも、伝えたかったことを伝えます。そうすることで、テレビを見ている人が、きっといろんなことを感じ取ってくれると思います。苦しい気持ちになったり、悲しくて辛い気持ちになったりすると思います。そうやって自分のことにように考えることで

「なんとかしなければ。」

という気持ちが芽生えて少しでも、何かを変えようと行動に移したり、

「自分にできることはないか。」

と考えるのではないかと思います。

３年ほど前、東日本大震災が発生しました。被害がとても多く出て、何万人もの方が亡くなりました。そんな中、死体の山が出来上がったり、汚れた死体を洗う係の人もいたそうです。そんな悲惨な状況は、今の私には想像もできないほどです。でも、ニュースではそんな悲惨なことより「感動秘話」などのキレイ事の方が多く報道されていたように思います。死

●部活動や学校外活動	ソフトテニス部
●好きな科目	体育
●好きなことや好きなもの	体を動かすこと
●将 来 の 夢	人を笑顔にできる人になりたい

体の山が出来上がったとか、死体を洗う係の人がいたなど、本当に起こった悲惨なニュースを私は耳にしたことはありませんでした。そのことを、みなさんはどう思いますか？私は真実を伝えきれていないと思います。悲惨なことが起こった震災について、きちんと伝えなければ同じような震災が起こったときに、同じ被害を繰り返すだけなのではと思うのです。悲惨なこと、哀しい出来事を見たり聞いたりするのは、とても辛いことです。できればそんなことは目にしたくないし聞きたくないと思う人も多くいると思います。でも、そこから目をそらさず、現実・真実を見つめることも大切なことなのではないでしょうか。そして、その真実を伝えることが報道の役割だと私は思います。悲惨な出来事、胸がつぶれるほどの悲しい気持ちを、体験した人々たちだけではなく、多くの人が共有するべきです。そのためにも報道は、真実をきちんと伝えて欲しいです。

このように、報道は本当の役割を果たせていないと思います。それではいけないと思います。例えば、先に述べた震災の出来事のように、テレビでは報道していない深くて辛くて苦しい物語が数え切れないほどあります。それを伝えるのが報道の役割ではないでしょうか。テレビや新聞などの報道を見た人が、

「可哀そう。」

と思うだけで終わってはいけないと思います。

今だけを見つめず、過去に起こった出来事これから起こるだろう出来事にも目を向けてこれからを考える。未来を創る世代の私たちが、そして、その私たちを育てる大人たちが１つずつ行動していくこと。それが今、私たちが未来のためにしなければならないことだと考えます。そんなことを、報道のあり方を見つめ直すことを通して考えました。

みなさんは、どう考えるでしょうか。

優秀賞

当たり前のこと

セントヨゼフ女子学園中学校３年
長谷川（はせがわ）　葵（あおい）

今、私が見ているニュースや報道番組で日本の様々な問題が報じられています。例えば、「いじめ」「自然災害」「教育の現状」「物価の値上がり」「政治」「経済」などです。このような問題は誰もが一度は必ず耳にすると思います。

そこで私は、「政治」について取り上げたいと思います。ですが、私がお話するのは「ＴＰＰ」「予算案」「参議院選挙」という類のものではないのです。

私が本当に取り上げたいのは、私達が住みやすく、安心して暮らせるように政治を行う政治家の様子です。国会で政治家が未来の日本について話し合いをしている様子がＮＨＫで放送されています。

ある日、私が家で昼食を食べているときでした。中継を見ていると「あれ？」と思いました。その理由は、野田元総理が意見を話している最中に、周囲が静かではないのです。うるさいのです。相手が話している途中に「そんなのおかしいではないか！」「そうだ」「そうだ」「その発言を撤回しろ！」という声が国会中に響いているのです。私は母に聞きました。「人が話しているときに、静かにしなければいけないのに、なぜ話しているの？」と。すると母は、「本当はいけないけれど、政治家だから人の意見に反発してしまうのやな。」と言いました。私は少しひっかかりました。政治家だから人が話しているときに話をしていいのでしょうか。政治家はこれからの日本を決める権利、話し合いで決まったことなどを記者会見などを通して、国民に伝える権利、このように様々な権利を持っていますが、「人が話しているときに話をしていい」という権利は政治家は持っていないはずです。もちろん、そんな権利は誰も持っていません。１４歳の私は、まだまだ未熟者で人の助けを借りなければ生きていけませんが人が話をしているときには静かにすることくらいは判断できます。

ではなぜ、人生経験や一般常識をわきまえている政治家が当たり前のことができていないのでしょうか。人が話しているときに話すことは、話している相手は嫌な思いをするし、客観的に見ても「話し合い」をしていないように見えてしまいます。さらに、その行為そのものが相手の意見を頭ごなしに反対しているのと同じことにもなります。たとえ未来の日本のために「話し合い」をしていても、それでは話し合いの意味がありません。今、様々な問題がある世の中で未来の日本を決めていく人達が、「当たり前」のことを「当たり前」に出来なくて、一体、他に誰が出来るのでしょうか？

●部活動や学校外活動	バドミントン部
●好きな科目	英語
●好きなことや好きなもの	絵を描くこと・読書・音楽を聴くこと
●将 来 の 夢	漫画家

もし、政治家が静かにして話を聞いていたら、聞いている方もその人の意見を直接聞くことができるし、話している方も「この人は、私の話を聞いてくれている。だから、こちらも、この人により伝わるように話そう。」と思うはずです。見ている人も「この人は、伝えようとしているな。この人は、聞こうとしている。」という思いを少なからず抱くはずです。

だから、相手の話を聞ける人間になりましょう。私も頑張ります。「当たり前」のことを「当たり前」に出来る人になりましょう。そして、未来の日本を創造していく子供達に教えましょう。このことを伝えたいのは政治家の方達にだけではありません。今を生きている人類全てにです。本当にあなたは「当たり前」のことを「当たり前」に出来ていますか。一度考えてみてください。そして気付いてほしいのです。「当たり前のことを出来ていない自分達に未来の子供達に一体、何が伝えられるのか。」と。

優秀賞

ネット社会の中の「言葉」

紀北町立三船中学校３年
森岡香帆（もりおかかほ）

最近、パソコンやスマートフォンなど、ネットで誰とでもつながれるようになり、「友達」も簡単につくれるようになりました。

「友達」をたくさんつくれるということは、うれしいことであって、とてもいいことだと思います。しかし、ネット上で簡単につくった「トモダチ」は本当に、本当の意味で「友達」といえるのでしょうか。このネット社会で私は、もう一度「友達」について改めて考えてみました。

「友達」や「仲間」というものは、「よろこび」や「かなしみ」を一緒に感じられたり、同じ場所で、同じ気持ちになったりして、自然にできていくものだと私は思っています。

顔を見て、話して安心できることもあるし、また反対に、相手が納得していないのかなあなど、言葉では言えないようなことでも表情を見て、なんとなく感じられることもあります。それに、「今日元気ないなあ、どうしたんやろ？」など、相手をきちんと見て初めて気がつくこともあると思います。

最近では、何か事件があると、それに対しての反応がネットの掲示板などですぐ出ます。匿名だと言いたいことが言えていい面もあるけど、そこまで言うかなあと思うこともあって、言い過ぎて、やり過ぎて、それは誰に対してなのか、怒りはどこに向かっているのか、批判だけが取り上げられ、本当の話題が見えなくなるようなこともあります。

以前、「芸人が殺人をした」という噂がネット上で広がり、その噂は結局デマだったのですが、とても批判を受けて社会に全く受け入れられなくなった人のドキュメンタリーをみました。本人は何も関係ないのに、その噂だけが勝手に一人歩きして、その人、その家族を追いつめてしまいました。匿名で意見を書いた人たちに、「なぜそこまでするのか」ということを聞いている場面がありました。書き込んだ人たちは、「自分のストレスの発散になるから」とか「みんながやっているから問題ないだろう」と思って書き込んでいるようでした。でも、そういう自分勝手な軽い気持ちでやったことが人を傷つけて追い詰めていたんだと思うと「やっぱりこわいなあ。」と思いました。

そのことを通して改めて、ネットでの「影響力」と「言葉の重み」を知ることができました。

今、私もこの情報社会に生きて、携帯電話やインターネットがあたりまえのように身近に

●部活動や学校外活動	バレーボール部
●好きな科目	社会、体育
●好きなことや好きなもの	音楽鑑賞・ピアノを弾くこと
●将 来 の 夢	人の役に立てる人になりたい

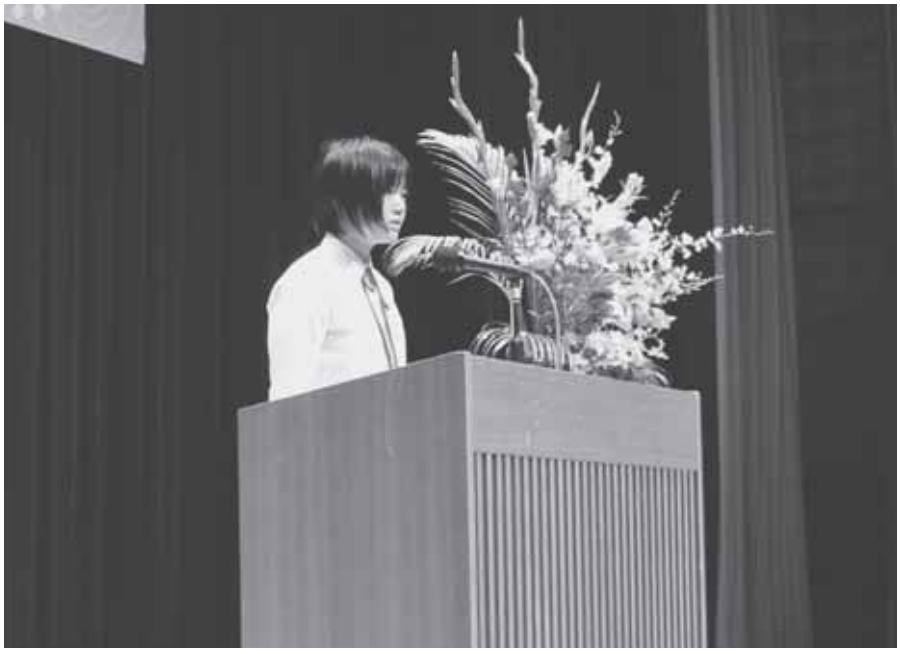
ある生活を送っています。

でも、一歩使い方をまちがえると、人を簡単に傷つけたりできる道具を持っているということになります。その便利な道具を、どう使っていくか、どう活用していくかが大切だと思います。

これから、私は、たくさんの人と関わっていくと思います。人は人と関わることで、いろんなことを感じたり、考えたりして成長していくと思います。関わっていく人、一人一人を大切にしていきたいです。

また、私のまわりの人にも「言葉の重み」をもう一度、よく考えてほしいと思っています。そうすることで、情報社会においても、みんなが傷つけ合ったりすることもなくなっていくのではと考えています。

そして、ネットの情報に左右されるのではなくて、自分の意志をしっかりもって、「言葉」と「文字」どちらも自分のものにしていきたいです。



優良賞

シェアすることで世界は開く

津市立一身田中学校３年
青木優芽（あおきゆめ）

私は、小さい頃から何かを作ること、つまり「創作活動」が好きでした。絵を描くことに始まり、年を重ねるたびにだんだんと視野が広がって、今は詩を書いたり、小説を作ってみたり、そして書いた詩に歌もつけてみようか、など興味がひかれるままに幅を広げています。吹奏楽部所属なので音楽も好きですし、バレエやよさこいを習ってきた経験からか、踊ることも大好きです。芸術という、簡単にいえば「何かを表現すること」全般に、興味を持っているからだと思います。

そして創ってきたものは、すべて大切に保管していました。それは私にとって、描いてきた世界そのものです。宝物と呼べるでしょう。

ですが、何もせずにしまっておくだけでは得られないことがあったのです。

ある日、女の子に「絵を描いてほしい」とお願いされました。その子が言ったテーマのとおり、でも人に渡すものだからよりていねいに心がけて、何より心をこめて描きました。その絵を渡したとき、その瞬間の輝くような笑顔を見て、私は思いがけないプレゼントをもらったような、何ともいえないうれしさを感じました。

それから、その子以外にも数人ですが依頼があったり、誕生日のプレゼントにそえるイラストを描いたりする機会が増えました。

そして同時期に、国語で俳句を作る授業がありました。そこで私は、予習でも俳句をやりたいと思い、ノートに書いて提出しました。返ってきたノートには、先生のコメントがていねいに記してあって、「もっともっと描いてほしいなぁ」と最後にありました。提出するたびに、先生はコメントを返して下さって「もっといいものを作りたい」という気持ちになりました。

私は、しまってあったものたちを、初めて自分以外の人と“シェア”したのです。私は「人の目に触れさせる」というのは、すばらしいことだと思いました。その人の喜ぶ顔が見られて、自分も心が満たされる。そしてその人が次もまた喜ぶといいなと願いながら、よりよいものを作っていく。素敵なことだとやってみて初めてわかりました。「すごいね」と言われると、人は誰でもうれしくなります。そう言われたいがために努力したり、工夫を重ねることは、ちゃんと「自分の心がみがかれる」という形で自分に還元されると思います。その人のために挑戦しているわけですから、そういうひたむきさは、人の心をきれいにしてくれる

●部活動や学校外活動	吹奏楽部
●好きな科目	英語
●好きなことや好きなもの	読書・イラストを描くこと・クラリネット演奏
●将 来 の 夢	記者

からです。

私が作った詩は、二十三個にまでなりました。ひとつひとつに、自分の経験や、日々感じていること、あるいは唐突に浮かんだ景色をつめこんでいます。浮かんだ映像や感じたものを言葉で形どるのは、とても難しいですが、出来あがったときの達成感はそのぶん大きいです。大げさに言えば、一つ一つが独立した世界です。私はそれらを毎回人とシェアしてきました。その評価、その人たちの笑顔や言葉は、何物にも代えがたいほどに大切なものだと私は思います。そして、自分への自信につながっていくでしょう。私は作品をシェアしたことで世界を開くことができました。だからこれからも続けていくつもりです。心が満たされるようなこの気持ちを、獲得し続けたいと思うから。そして、もっともっとつながれる人たちがいるのではないかと思うからです。

私は、前までの私のように、自分の創りあげたものたちをしまったままの人に伝えたいです。シェアすることで世界は開くと。そして思いがけない人と出会い、得るものはかけがえがないのだと。そうやって外へとアンテナを向ける人が増えれば、人生はもっとグローバルになるのではないでしょうか。

優良賞
社会に眼を開く　～新聞を出発点として～

セントヨゼフ女子学園中学校３年
赤塚叶実（あかつかかなみ）

「お母さん、今日はなんだか、悲しくて暗い記事ばっかり。新聞ノートに取り上げて、私の未来に、希望が持てるような題材は、見つからないみたい。」

「お母さんも同感。ここのところ、先生や指導者からの体罰の問題とか、少年の犯罪とか、本当に気持ちのトーンが、下がってしまう記事が、多いよね。」

「お父さんも同じ意見を持ったよ。新聞に取り上げられるテーマと社会との関係はとても強いよね。毎日、楽しくて嬉しくなるような記事が続けば、それは、世の中が明るいってことだからね。」

これは、我が家の休日の朝の一コマです。私と新聞との出会いは、ちょうど２年前になります。中学生になった時、私は毎日、ほんの少しの時間であっても、新聞に目を通すようになりました。ちょっと寝坊してほとんど時間のない日の朝でも、第一面はさっと目を通してから、登校します。

中学２年生になって、社会の教科として「新聞ノート」を作ることになりました。自由に記事をピックアップする。そして要旨と感想を書く、という課題でした。私は、最終回の二月までにいろいろな記事を読んで、楽しい時間を送ることができました。

この、十ヶ月の「新聞ノート作り」は、私に３つの宝を届けてくれました。

第１の宝は、両親との会話が多くなったことです。新聞記事について互いに意見を出し合い、家族の絆が一層深まりました。

第２には、社会への関心が高まったことです。家族そろってニュース番組を見たり、読書の時間も多くなりました。

そして、最後の３つ目の宝は、私自身の心の成長です。これは、物差しなどでは測ることのできない、本当の宝物です。これまで私は、奉仕活動に行っても学校の行事の一つとして考えていました。今、新聞をしっかり読んで私の目は開きました。新聞記事の一つ一つが私と社会を結んでいる、そして私の行動は私の成長につながっている、と気がつきました。

２０１３年、１月２４日、木曜日、中日新聞。

「お母さん、今日の新聞、面白い。名古屋大学の大学院がほかの大学や製薬会社と連携していくって。そして、薬剤師養成について新しい方向性が書いてある。」

「そうそう。実は今朝、お父さん、早く出かけたけど、その記事のことで帰ったら話した

●部活動や学校外活動	ソフトボール部
●好きな科目	国語
●好きなことや好きなもの	スキー・読書
●将 来 の 夢	薬剤師

いって。」

この母の言葉に両親の温かさを強く感じました。

私の父はいくつかの調剤薬局を経営しています。祖母は、クラッシックの集いや、様々な地域活動の場として自宅を開放しています。こうした両親や祖母の影響を受けて育った私は、薬剤師を目指し、奉仕活動への関心もあります。例えば、この９月２３日には、三重県文化会館大ホールで、日野原重明先生の講演会がありますが、祖母と一緒にパンフレットの整理をしています。

新聞は家族の絆を深めてくれました。社会に目を開く大きな窓となりました。そして私の心の成長に繋がりました。私は、これからも社会参加への第一歩として、新聞との出会いを大切にしていきたいと思います。

優良賞
眼鏡をかけるようになって気付いたこと

四日市市立羽津中学校２年
市川美貴（いちかわよしき）

私は、６歳の頃から眼鏡をかけています。その頃から、運動する時によく転んだり、テレビなどを観る時に目を細めて観たりすることから、母と一緒に近くの眼科に行くことになりました。診断結果は「乱視と軽い弱視が原因のため、眼鏡をかけた方が良い。」とのことでした。初めは眼鏡をかけることにとても抵抗があり、違和感も感じました。しかし、眼鏡をかけることで、以前よりも周りが見やすくなり、世界が広がったように思いました。その結果、私自身も様々なことを努力しようと、考えられるようになりました。

ただ、眼鏡をかけるようになって、幼稚園の時に友だちから「メガネザル」などと呼ばれるようになりました。私はその時、とても悲しい気持ちになりました。しかし、それ以上に、何も言い返すことが出来ない自分が何より悔しくて、自分に腹が立ちました。その日家に帰った私は、幼稚園での出来事を思い出すと涙が止まりませんでした。それを見た母は、「自分が言われて嫌なことや悲しいことは、美貴は友だちや周りの人に絶対言ってはいけないよ。」と言い、励ましてくれました。その時私は、言葉で相手を傷つけてしまうことの恐ろしさに気付きました。その翌日からも、「メガネザル」と言われましたが、気にしないように心掛けました。そんな時、家族で「メガネザル」を見るために「日本モンキーパーク」を訪れました。そこで多くのメガネザルに出会いました。悪口に聞こえ、感じていた「メガネザル」が私にはとても可愛く見えました。そうすることで私は、自信が持てるようになり、それからは「メガネザルは可愛い。」と自分に言い聞かせるようにしました。中学生になった今なら私は堂々と言えます。「メガネザルに似てる。」と…。

少し眼鏡にも慣れてきた頃、近所のお年寄りに「こんなに小さいのに眼鏡をかけていてかわいそう。」と言われました。その時の私には「かわいそう」の意味が理解出来ませんでした。私にとって眼鏡をかけることは、周りが良く見える素晴らしいことなのにどうしてだろうと不思議に思いました。

そう考えると私は、自分自身の考えが間違えていたことに気付きました。今まで私自身が勝手に、「かわいそう」と思い込んでいた体が不自由で盲導犬を連れて生活をしている人や、耳が不自由で補聴器をつけている人、手話をしている人…。決してその人たちは、かわいそうなのではなく、人一倍努力をしている人たちであることに、気付きました。私は眼鏡をかけることで、たくさんの不自由もありましたが、私自身がその立場になることで初めて

●部活動や学校外活動	ソフトテニス部
●好きな科目	国語
●好きなことや好きなもの	ソフトテニス・動物と触れあうこと
●将 来 の 夢	動物栄養士

気付くことや、学ぶこともたくさんありました。そして、不自由と私が感じる時にはいつも私のことを考え、支えてくれる家族や先生、友だちの存在がありました。だから私も、「不自由」と感じている人が周りにいたらもちろん、困っている人と出会ったら、私はすぐに自分の出来ることを考え、少しでも力になることが出来る行動を、取りたいです。

感じる場所や頻度が違うだけで、人それぞれ不自由があるはずです。もちろん、目に見える不自由も目に見えない不自由も…。しかし、どの人も皆支え合い、助け合いながら共に生きて行く、同じ仲間なのだと私は思います。

優良賞

生きる

四日市市立三重平中学校２年
伊藤美夢（いとうみゆ）

「生きる」という言葉だけを見ると、とても大きくて重い印象を感じますが、この題名を付けた理由は、私のすぐ近くにありました。

昨年１０月、私のひいおばあちゃんが亡くなりました。９１才でした。ひいおばあちゃんは認知症でした。「認知症」という言葉は聞いたことはありましたが、それが病気なのか、どんな病状があるのかなどは知りませんでした。無関心で知ろうともしなかったです。

ひいおばあちゃんの家は、私の住んでいる所から車で５分ほどの所にあり、よく遊びに行くのですが、ひいおばあちゃんは私の名前がわかりませんでした。いつも「あんた誰やった？」と聞きます。私はおどろいて、何と答えたらいいのか分かりませんでした。その後も、徘徊が始まり、オムツをする様になり介護が必要になっていきました。介護センターにも行く様になりましたが、ひいおばあちゃんは、この介護センターに行くことが毎回楽しみでした。私は慰問で行った事はありましたが、ひいおばあちゃんと介護センターで過ごしたことがなかったので、もっと一緒に遊んだり話したり、介護センターの事をもっと知っておけば良かったなと後悔しました。

昨年のお盆に、ひいおばあちゃんの家に家族が集まりました。みんなでごはんを食べている時、家族とひいおばあちゃんが何か楽しそうに話をしていました。その内容を聞いてみると、ひいおばあちゃんの若い時の話しでした。結婚した時のこと、戦前、戦時中、戦後のこと、好きだった歌手のこと。

おどろきました。ごはんを食べ終わったその１５分後、いつもひいおばあちゃんは「ごはんまだかなぁ。おなかすいたなぁ。」と言って１５分前に食べた事すら忘れて同じ事を何度もくり返していたのに、何十年も前の事ははっきりとおぼえているのです。不思議でした。

それからは私も認知症について少し関心を持つ様になったのです。

またある日、みんなでごはんを食べ終え、片付けようとしていたら、ひいおばあちゃんも片付けを手伝おうとしていました。「危ないから」と止められていました。さみしそうにしているひいおばあちゃんにふきんを渡して「ひいおばあちゃんは机をふいて」と頼みました。そしたらひいおばあちゃんはうれしそうに楽しそうに机をきれいにふいていました。私は、やりたいと思っている人をダメだと止めるのではなく、何かひとつでも出来る事を頼めばいいのだと気付きました。

●部活動や学校外活動	ソフトテニス部
●好きな科目	数学
●好きなことや好きなもの	テニス・パソコン
●将 来 の 夢	イラストレーター

そのあと、ひいおばあちゃんは「もう家に帰ります。ありがとう」と言い出しました。「ここがおばあちゃんの家だよ」と言うのですが、ひいおばあちゃんは「帰ります。」と言います。そのやりとりが何回か続きました。私は半分やけになって、「じゃあ、ひいばあばはここに泊まっていってくれる？」と、とっさにうそをつきました。そうしたら、ひいおばあちゃんは、「そうかぁ。ありがとう」と言って笑顔になりました。その時私は思いました。認知症とは何か、認知症の家族との関わり方など、少しずつではありますがわかってきた様な気がしたのです。そんな時、ひいおばあちゃんは亡くなってしまいました。これからもっとたくさん話をしたかったのですが、もういません。

ひいおばあちゃんはいつも「ありがとう」を何回も何回も言う人でした。介護センターの職員さんにも「やさしいおばあちゃんでした」と言ってもらいました。認知症には個人差があり、症状も人それぞれだそうです。

私はまだ１３年しか生きていませんが、ひいおばあちゃんの生きてきた９１年間という長い年月は、私に「生きる」事を教えてくれた様な気がします。最後まで私の名前を思い出してくれることはありませんでしたが、今思うと、素直に「ひ孫の美夢やに」と答えておけばよかったんだと気がつきました。

優良賞

自分を変えてみんなを変える

鈴鹿市立鈴峰中学校２年
岩崎彩香（いわさきあやか）

私は、最近「普通」という言葉に疑問を感じることがあります。なぜかというと、皆さんがそれぞれちがうように、人によって何が「普通」のことなのかがちがうと思うからです。なので、自分の体験談を通じて、私が思うことを伝えたいと思います。

私の中学校には、障がいを持った子がいるのですが、私はその子と小学校が同じなので、よくその子について、友達から質問をされます。その質問の中に

「あの子、普通の子？」

という質問がありました。私はその時、とても嫌な気持ちになりました。質問してきた友達にとって、「普通」とは一体何なのか、そして、どうしてそんな質問をするのか、などと、たくさんの疑問を感じました。なぜなら、その友達が思っている普通とは、その友達が勝手につくりあげた普通ということだからです。その言葉をあたりまえのように使うのは、少し違う気がするし、とても悲しくなります。その友達が言う普通とは、どんな人のことを指すのか、誰を基準にして言っているのか、私にはわかりませんでした。

このような体験は、一度や二度ではありません。例えば、みんなより少し足がおそいとからかわれたり、みんなより背が高かったり低かったりすると、馬鹿にされたりすることもあります。それもきっとみんなの中に、普通という基準があるからだと思います。私は、みんなが勝手につくり上げている普通のせいで、いじめや人種差別のような人権問題が起こっているのだと思います。自分自身も、自分が知らないうちに、へんな基準をつくってしまっていると思います。でも、そのことでまわりの人を傷つけたりはしたくないです。私が大切だと思うのは、自分の発言や行動にもっと責任を持ち、しっかりと考えてから言葉にすることです。そうすると、人を傷つけてしまうことも、少なくなると思います。それに、いじめ問題や人種差別のような人権問題も減っていくと思います。あとは、自分自身が変わるために、自分にもっと自信を持つことが大切だと思いました。自分に自信を持つことで、個性や自分らしさが出て、一人一人がまわりの人と比べ合いをせずに、「普通」という言葉も、誰かが嫌な思いをする意味で使われたりしなくなると思います。

これから、私たちは大人になって、働いたり、いろいろなことをしなければならない時が来ると思います。人権問題について考えたり、教えたりすることもあると思います。その時には、もう「普通」という言葉が、へんな意味で使われなくなっていたら嬉しいです。そう

●部活動や学校外活動	ソフトテニス部
●好きな科目	国語
●好きなことや好きなもの	音楽をきくこと
●将 来 の 夢	絵本作家

するには、まずは自分が変わっていくべきだと思います。私が、差別をせず、みんなに平等な態度をとることができる人になれたら、きっとまわりの人は、いいふうに変わってくれると思います。それが、私のまわりだけでなく、もっと広くひろがっていったら嬉しいです。そして、今起こっているいろいろな人権問題が解決していってほしいと思っています。人権問題は、一人一人の気持が大切だと思うので、そのことも気にかけ生活していきたいと思っています。皆さんも、まわりのことを考えながらも、きちんと自分の意見を言ったり行動したりして、人のすることに流されてしまわないように、自分の意志をしっかり持ってほしいです。しっかりと自分の意志を持ちながらも、まわりの人を思いやれる人が増えてくれると嬉しいし、私もそんな人になりたいです。

優良賞
心の病なき未来へ　～摂食障害を乗り越えて～

紀北町立潮南中学校３年
片岡（かたおか）　聖（ひじり）

私は小学５年生の時、摂食障害になりました。

摂食障害とは、過度なダイエットによって脳に栄養がいかなくなり、食事を受け付けなくなって痩せていく病気です。この病気は、思春期の女子千人に一人がなるといわれていて、完治するのに１０年はかかるそうです。症状が悪化すると、うつや骨粗鬆症になり、最終的には亡くなってしまう人もいるほど、恐ろしい病気です。

私の場合は早期発見だったため、症状は軽く２～３年で元気になりました。しかし、その２～３年は長く、とても辛かったです。

私がダイエットを始めたのは、友達の何気ない「見た目のわりに体重があるね。」などの言葉がきっかけでした。周りの友達に比べて成長が早かっただけなのに、その言葉で体型を気にするようになってしまったのです。だから私はほとんど食事をとらないダイエットを始めました。効果はすぐにあらわれ、体重は大幅に落ちました。ダイエットに成功したと思い、とても嬉しかったです。しかし、この達成感から「少し体重を減らしたい」という思いが、「もっと痩せたい」という思いに変わってしまい、このダイエットを続けてしまいました。すると、いつのまにか、腕や足は枯れ枝のように細く冷たく、背中やあばらも骨がつき出ていました。顔は青白くなり目は落ちこみ、まだ１１歳だったのにほうれい線までありました。当時の私の姿は、まるで骨に皮がついているだけのようでした。食は私たち成長期においてとても大切なことなのに、太りたくない一心で食べることを拒んでいました。少しでもカロリーの高いものを食べてしまうと、太ってしまうのではないかという恐怖心なのか、食べたことに対しての後悔なのか、自分でもよく分からない感情が心の底から溢れ出てきて、泣いてばかりの暗い毎日でした。テレビを見たり、友達と遊んだりといった、小学生には当たり前の生活ができませんでした。

そんな毎日の生活はとても言葉にできないくらい辛かったのですが、一番辛かったのは母だったと思います。

私の家は、母と私の２人で暮らしています。父は、私が生まれる前に病死しました。そのため、母が仕事をしていました。ただでさえ毎日仕事で大変だったのに、夜に泣いた時はずっと朝まで付き合ってくれたり、私が何か少しでも食べられるようにと、いつも工夫して食事を作ってくれました。最初は２口くらいしか食べられませんでしたが、私のために１人

●部活動や学校外活動	ソフトテニス部・生徒会書記
●好きな科目	英語
●好きなことや好きなもの	料理・イラスト
●将 来 の 夢	カウンセラー

で頑張ってくれている母の姿を見て、「食べなきゃ」という思いが少しずつ出てきました。そして、徐々に食べられるようになっていきました。また、学校では摂食障害の症状でイライラして、友達にきつい態度をとってしまったこともありました。気分が悪くなると保健室に行き、養護の先生にいつも話を聞いてもらっていました。今思えば、見捨てずに仲良くしてくれた友達、忙しいのに相手をしてくれた養護の先生、諦めないでいてくれた母のおかげで今の私があるのだと思い、感謝しています。

この病を経験して、五体満足で生まれながら暗い気持ちで人生を過ごしてしまうのは、もったいないと思いました。特に摂食障害は一番楽しい青春時代を台無しにしてしまうので、さらにもったいないと思います。しかしこれから先、摂食障害も含めて心の病になる人は増えてくるといわれています。

私は「誰かに悩みを聞いてもらう」ことで心の病を予防することができると思います。私の場合、恥ずかしくて誰にも悩みを言えず、１人で抱えこんで摂食障害になってしまいました。だから、家族、友達、先生、誰にでもいいから「悩みを聞いてもらう」ことが大切だと私は思います。心の病は自分でもわからないうちになってしまうものです。また、心の病は体の病に比べて理解されにくいです。なった人にしかわからない辛さがあります。

私はこの経験を生かして、カウンセラーになりたいです。そして、摂食障害はもちろん心の病をもつ全ての人達を、１人でも多く救っていきたいです。それが私の将来の夢です。

優良賞

私を変えてくれた生徒会

鈴鹿市立白鳥中学校３年
川北真子（かわきたまこ）

私は、生徒会執行部で書記をしています。私が執行部に入った理由は、最初はただ楽しそうだなぁとか、おもしろそうという気持ちだけでした。けれど日を重ねるたびに挑戦してみたいなぁという気持ちや、自分も学校のために何かできないかなぁという気持ちが強くなってきました。それと同時に、部活動の方でも、キャプテンとして自分に自信をつけられず、何か他の場所で、違う視点で「まとめる」ということを考えてみたいと思っていたところでした。そしていろいろな友達に相談してみたけれど、どの子も「えっ？真子が？」という反応ばかりでした。それで私は少し自信をなくし、バレー部の顧問、副顧問の先生に相談してみました。先生は私に「真子がいっぱいいっぱいになってつぶれてしまうことは一番いけないことだけど、やることに対しては止めないから、最後は自分で考えてみろ。」ということを言われました。私はその言葉を聞いて少し心配になり、自分でもう一度考えました。けれどこのチャンスを逃したら、もう変われる機会はないだろうなと思い、立候補しました。選挙は信任投票で当選しました。当選してからも、私は不安ばかりでした。もっと他に適した人はいなかったのかとか、自分の一人よがりだけで、ありがた迷惑だったのかもしれないとか、後悔したこともありました。けれどだからこそ、私なりの私にしかできない執行部を作れるんじゃないかと考えるようになりました。そして目安箱の設置や生徒会だよりの発刊、体育祭や生徒議会など、なんでも自分から進んで取りくめるようになりました。その中で、失敗することも多々ありました。けれど、執行部のメンバーや先生などが助けてくれたので、今があると思います。執行部に入って、行事やイベントをすることがたくさんあり、その中で前期のメインイベントである体育祭がありました。今年の体育祭は私たち３年生にとっては最後の体育祭になります。体育祭に向けた取り組みの中で、私は多くのことを学びました。１つは人に教えることの大変さです。私は体育祭のオープニングでやるダンスをみんなに教えていました。けれどみんな覚える気持ちはあるけれど、なかなか形になりませんでした。そんな時に私はイライラしてしまい、強く言うこともありました。だけど強く言っても優しく言ってもあまり変わらないなと気付き、何回も何回もチェックして、そしてやっとできるようになった時は、すごく達成感がありました。人に教えることは、とても大変だけど、自分で何度も何度も根気強く教えることでいつかはその分の達成感を得られるということがわかりました。２つめは、周りに気を配り、人の気持ちを考えることです。生徒会で

●部活動や学校外活動	バレーボール部、生徒会
●好きな科目	社会・音楽
●好きなことや好きなもの	体を動かすこと・音楽鑑賞
●将 来 の 夢	保育士

は体育祭についてたくさん話し合いをしました。その中で自分の意見ばかりをだして、みんなの意見を聞いていないことに、はっと気付きました。その時に、今までも自分一人で話して、迷惑をかけたんじゃないかと考えたら、すごく恥ずかしくなりました。だけどその日から、みんなの意見を聞いて、まとめ役の人にお任せするのもみんなのためかなと考えるようになりました。

執行部はたくさんのことを教えてくれる、とてもいい場所だと思います。体育祭のことでも、みんなのために、みんなに喜んでもらえるようがんばったことで、いろいろなことを気付かせてもらいました。それと、生徒会だけでなく、生徒、先生、親、誰が欠ても体育祭は成功しなかったと思います。私たち執行部はもう残り２カ月しかないけれど、自分にできることを精一杯して、私たち執行部が土台となり、生徒全員が何事にも一生懸命取り組む気持ちをもち、その結果感動を味わえるような学校に変えていきたいです。

優良賞

携帯電話について

亀山市立関中学校３年
倉城有稀（くらしろゆき）

最近、多くの人が携帯電話を持つようになりました。私のまわりでもほとんどの人が携帯電話を持っています。しかし私は持っていません。携帯電話を持っていない私から見て思うことを中心に、携帯電話について考えました。

まず、私から見て良いと思うところについて考えました。それは、携帯電話を持つことで、行動できる時間とか範囲などが増えるところだと思います。今、どこで誰と何をしているのかなどが、携帯電話を持っていたらお互いすぐに伝えあうことができます。両親や友達に今の情報をすぐに伝えることができるというのは、とても便利で良いことだと思います。

次に、良くないと思うところについて考えました。メールばかりして勉強や睡眠の時間が減ってしまったり、長時間画面を見たせいで目が悪くなったりということをよく聞きます。また、メールがきたら必ずすぐに返すというルールのようなものに縛られ、自分の時間がなくなってしまうように思います。それに、犯罪にあう危険も高まったと思います。相手が分からないことも多いので、私は危ないと思います。他にも、迷惑メールやメールによる陰口、噂話など、良くないところもたくさんあると思います。

私のまわりの人達が携帯電話を使っているのを見て、いつも私が感じることですが、私は、みんなが携帯電話を使っているのを見ると、いつも寂しくなります。そう感じる理由は２つあります。

１つ目は、友達がいつも携帯電話の話ばかりしていることです。何人かで集まり遊んだ時も、私以外の友達はみんな携帯電話で遊んでいました。話に入りたくても何の話かさっぱり分からないし、携帯電話に関係のない話をしたらほとんど聞いてもらえませんでした。携帯電話で遊ぶことが悪いこととは思わないけれど、一人だけ話に入ることができないのは、仲間はずれのようで寂しかったです。

２つ目は、母がよく携帯電話を使うようになってから、話ができる機会が少し減ってしまったことです。学校から帰ってきて、「ただいま。」と言っても返事が返ってこなかったり、忙しそうにメールの返信をしているから話かけられなかったりすると、少し寂しく感じます。母は悪くないと分かっていても、話かけても画面を見たまま返事を返されると、やっぱり寂しいです。

だから、毎日いつもみんなが携帯電話を使っているのを見ると、だんだん、大切な人を携

●部活動や学校外活動	バスケットボール部
●好きな科目	音楽
●好きなことや好きなもの	スポーツ・ピアノを弾くこと
●将 来 の 夢	医療関係者

帯電話に取られてしまうような気がしてしまい、寂しいと思うのです。

では、私も携帯電話を持ってしまえば寂しくはなくなるだろうと思うこともありました。そうすれば、友達との会話にも入れて楽しいでしょう。だから私も携帯電話がほしいと何度も思いました。しかし、携帯電話を持つのは、電車に乗って学校に通う、高校生になってからにしようと決めています。それは、今寂しいのを我慢するより、今の私が携帯電話とうまくつきあうほうが難しいと思うからです。友達とのメールのやり取り、楽しそうなゲームなど、どこまで自制できるかも分かりません。実際にやりすぎてしまったという話もたくさん聞きました。

私は、携帯電話はもっとつきあいやすいものであるべきだと思います。持っている人も持っていない人も嫌な思いをすることがないように、携帯電話は便利で楽しいとても良いものだけになればいいなと思います。

優良賞

「おかえり」はどっちが言う

鈴鹿市立千代崎中学校３年
宮崎圭織（みやざきかおり）

「ただいま」
と帰ると、
「おかえり」
とお母さんの声がする。このどこの家にもある当たり前の光景は、私の母の夢でした。そして小学校のころの私のほしいものでもありました。

私の母は、仕事をしていて毎日帰りが遅いです。だから、私の家では私が
「おかえり」
と言って、母が
「ただいま」
と言います。そのことを母は心の中で、いつも「ごめんね」と思っていたそうです。仕事をしながら「おかえり」と言ってあげたいと思っていたそうです。確かに小学校のころは母が家にいて、帰りをむかえてほしかったです。友達と遊んだり、習い事に行ったりして家に一人でいることはほとんどなかったし、高学年になるとミニバスケに入って、放課後は夢中で練習していたから、一人でさみしく家にいることはありませんでした。でも、やっぱり家のかぎを自分で開けて、誰もいない家に入るのは少しさみしかったです。

母も「おかえり」と言えるように家にいてあげたい、でも、仕事もしたい、という両方の気持ちを持っていたそうです。仕事はお金をかせぐというだけでなく、やりがいも感じるし、社会とのつながりも感じる、母にとっては大切なものだそうです。今より育児制度が整っていなくて女の人が社会で働くということは大変な面もあったそうですが、母は子育ても仕事もとても楽しいと言っています。

中学生になった私は、母の気持ちが少しずつ分かるようになってきました。じゃあ私は？将来、子育てをするようになった時、仕事をどうしているでしょう。私は「おかえり」を言うお母さん？それとも「おかえり」を言ってもらうお母さん？

中３になり、進路のことや将来のことも家で話が出るようになってきました。私はどうしているかなと考える機会が増えてきました。私は、やっぱり子どもが帰るころには家にいて「おかえり」と言ってあげたい。でも人の役に立つ仕事をもって一生続けたい。なやみます。両方どっちもできる方法はないのかなと思います。

●部活動や学校外活動	女子バスケットボール部
●好きな科目	英語
●好きなことや好きなもの	バスケの試合を見る事
●将 来 の 夢	人の役に立つ仕事

母はワーキングシェアの制度が早く、日本でも取り入れられるといいのに、と言っています。福祉の進んでいる北欧では、もうずい分前からワーキングシェアが広がっていて、例えば子どもが小さい人が昼まで働き、子どもが帰る時間には家に帰る、そして午後に余裕のある人と仕事を交代する、つまり二人で一人分働くというやり方だそうです。もちろんお給料も分け合います。そして、子どもが大きくなったら、また社会にもどれるというわけです。今はあまり聞かなくなったそうですが、私を産んだ頃、母の友達で育児休暇をとって仕事に復帰したら、わざと残業が多い部署に異動させられたそうです。子育てとの両立が難しくなり辞めていく女の人がかなりいたと聞きました。今は男の人もイクメンと呼ばれて育児に協力する人が増えてきたし、育児休暇も長い間とれるし、母も私の学校行事に来るときは、特別の休みがもらえるようになったと喜んでいます。育児に対する環境は少しずつ変わってきています。

それでも女の人が子どもを育てながら働くって、母を見ていると大変そうだと思います。一生続ける仕事を持ちたいけれど、今の私は「おかえり」を言うお母さんになりたいと思う気持ちの方が強いです。けれど私のように育児も仕事もできたらと思っている子はたくさんいると思うので、両立できる制度ができたり、子育てをしながら働きやすい環境になったりしていくといいなと思っています。

地域優秀賞一覧（30名）

No.	学　校　名	学年	名　前	タ イ ト ル
1	四日市市立港中学校	1	南　　光瑠	全てをいじめで済ませていいのだろうか
2	四日市市立富洲原中学校	1	八尋星梨加	将来の夢に向けて
3	四日市市立富田中学校	3	荒木　献大	思いやる気持ち
4	四日市市立南中学校	2	荒牧佳奈江	みんなの笑顔のために
5	四日市市立三滝中学校	3	稲垣　遥大	「海の一部」になるために
6	四日市市立三滝中学校	3	宇野　航平	中学生と携帯電話
7	四日市市立羽津中学校	2	寺村　祐香	身近なことから
8	暁中学校	2	丸山　和紗	“ゴミ”を
9	暁中学校	3	加藤　百恵	電子書籍って必要？
10	暁中学校	3	廣田　花歩	命の共存
11	鈴鹿市立千代崎中学校	3	清水菜々子	夢に向かう道のり
12	鈴鹿市立千代崎中学校	3	稲垣　茉依	「楽しく暮らすために」
13	鈴鹿市立天栄中学校	3	後藤　理沙	叶うから夢、叶わないから夢
14	鈴鹿市立天栄中学校	3	米川　悟史	テレビが与える害
15	鈴鹿市立鈴峰中学校	2	早川　由帆	先輩と後輩の間にあるもの
16	鈴鹿市立鈴峰中学校	2	原　　優香	みんなが暮らしやすい社会
17	鈴鹿市立創徳中学校	1	佐藤　朱音	伝えたい事
18	鈴鹿市立創徳中学校	1	田村佑理那	向き合うということ
19	亀山市立関中学校	3	中澤　小雪	自分の今と夢
20	津市立橋南中学校	3	伊藤そのか	一人の日本人として
21	津市立朝陽中学校	3	鏡　　有沙	新聞が教えてくれること
22	津市立久居東中学校	3	浜口　紗吏	自分が「輝く」瞬間
23	津市立香海中学校	3	岸江　佑紀	大嫌いから少しだけ
24	津市立香海中学校	3	畑　穂乃香	二十年に一度
25	名張市立赤目中学校	2	岡松　里奈	視野を広げる
26	紀北町立赤羽中学校	1	久保　華香	世界の子どもたちについて
27	紀北町立紀北中学校	3	河村慶一郎	部活動
28	紀北町立三船中学校	3	川口　七穂	「平和を創る」
29	熊野市立有馬中学校	2	川口　　萌	理想の大人
30	熊野市立有馬中学校	3	中芝　優衣	生きていてよかったこと

学校奨励賞一覧（26校）

四日市市立塩浜中学校、四日市市立富洲原中学校、四日市市立富田中学校、四日市市立保々中学校
四日市市立常磐中学校、四日市市立三重平中学校、四日市市立羽津中学校、鈴鹿中学校
亀山市立関中学校、津市立香海中学校、松阪市立大江中学校、松阪市立飯高東中学校
多気町松阪市学校組合立多気中学校、多気町立勢和中学校、伊勢市立沼木中学校、皇學館中学校
鳥羽市立加茂中学校、日生学園附属中学校、名張市立桔梗が丘中学校、名張市立名張中学校
名張市立赤目中学校、名張市立北中学校、名張市立南中学校、尾鷲市立輪内中学校
紀北町立赤羽中学校、熊野市立有馬中学校

審査基準

【論旨】

① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
② 新しい情報や視点があるか。
③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調】

① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
② 説得力のある話し方であるか。
③ 話しぶりに熱意と迫力があるか。

【態度】

① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

審査委員の皆様

審査委員長	齋藤　彰一	みえ次世代育成応援ネットワーク　代表
審査委員	志田　行弘	三重テレビ放送株式会社　代表取締役社長
	西　　孝	三重大学社会連携研究センター　特任教授
	二村　直司	尾鷲市教育委員会　教育長
	大西　　学	三重県小中学校長会　幹事(多気中学校長)
	酒井　伸弥	三重県ＰＴＡ連合会　常任幹事
	八木　陽子	三重県私学協会(津田学園中学校教諭)
	大西　義人	三重県教職員組合　中央執行副委員長
	鳥井　隆男	三重県健康福祉部子ども・家庭局　局長
	水元　　正	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団　副理事長

各審査委員の講評・感想(順不同・敬称略)

【審査委員長(講評)】齋藤彰一(みえ次世代育成応援ネットワーク　代表)

８月25日(日)に開催された「中学生のメッセージ2013」(第35回少年の主張三重県大会)には県内から54校、7,788点の作品が寄せられ、その中から選ばれた13名の皆さんに発表していただきました。

私にとりましては、審査委員長の仕事は初めてであり、少なからず緊張しましたが、私以外の９名の審査委員の皆様のご協力により、滞りなく審査を終えることができました。また、本大会の運営にあたっては、赤羽中学校、紀北中学校の皆さんの全面的な協力があり、尾鷲中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏が華を添えてくれました（私は審査中で残念ながら聴けませんでしたが)。

全体の印象としては数多くの作品から選ばれただけあって、13名の皆さんの文章に殆ど差はなかったように見受けました。テーマも政治経済から身近な生活上の問題、自身の経験と将来の夢など多岐に亘り、しかも中学生らしい鋭い感性とセンスが至る所に感じられ、読む者を飽きさせませんでした。唯一残念だったのは、皆さん句読点の打ち方が正確ではなく、一部読みにくい部分があったことです。先生方のご指導よろしくお願い致します。

文章力と同時に大切なポイントは発表の仕方です。人前で発表することは大変勇気のいることですが、話し方に説得力や熱意、迫力があるか、聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたかなど、文章を棒読みせず心をこめて話すことにより、さらに素晴らしい作品になっていきます。今年は文章よりも話し方の巧拙で差ができたような気がします。

10名の審査員の厳正な審査の結果、最優秀賞には四日市市立富洲原中学校３年の山本桃子さんが選ばれました。山本さんは「ペットについて」というテーマで、最近はペットを飼う人が多いけれども無責任な飼い方で悲惨な運命を辿るケースが後を絶たないこと、飼うからには責任を持った飼い方をしてほしいこと、自分は将来動物愛護のNPO活動をしたいという内容で、ペットの命の大切さを訴えていました。文章も論旨明解でしたが、何よりも話し方に説得力があり、表情も豊かで聴衆に自分の想いを伝えようという意欲がひしひしと伝わって、聴く人を魅了しました。山本さんは「少年の主張全国大会」の出場候補者として、中部・近畿ブロック選考会に推薦されますが、三重県の代表として是非頑張ってほしいと思います。

優秀賞の３名の皆さんも立派な発表でした。紀北町立三船中学校３年の玉置琴音さんは報道が本来伝えるべき真実を伝えきっていないのではないかという観点からマスコミ報道のあり方について鋭く切り込んでいましたし、同じく三船中学校３年の森岡香帆さんはネット社会の課題を中学生らしい素直な発想でまとめており、発表の態度も立派でした。また、セントヨゼフ女子学園中学校３年の長谷川葵さんは「人の話を聞く」という当たり前のことを政治家が国会の場などで守っていないことを指摘、大人への警鐘を鳴らしていました。

優秀賞も印象的な作品ばかりでしたが、特に次の二作品は心に残るものでした。セントヨゼフ女子学園中学校３年の赤塚叶実さんは新聞を読むことによって家族との会話が弾み、世の中の出来事に関心を持つようになったという内容で、新聞を読むことの大切さを教えてくれました。ま

た、紀北町立潮南中学校３年の片岡聖さんは自分が経験した摂食障害の苦しさと克服した経緯を率直に語り、大きな感銘を与えてくれました。

中学生の皆さんは何年後かには社会人になっている筈です。職種は会社員、自営業、先生、公務員など様々でしょうが、社会人の資質として求められる要素の一つが「コミュニケーション能力」です。現在はパソコンや携帯電話でコミュニケーションをとることが一般化し、会話の苦手な人も多くなっていますが、「Face to Face」の大切さは全く不変です。この「中学生のメッセージ」はお互いに対話する訓練としては最も有力なツールの一つだと思います。自分の考えを文章にして発表することは学生・社会人を問わず成長するための大切な項目だと考えますので、来年以降も多くの中学生の皆さんが応募していただくよう期待いたします。たまたま、今年は13名の発表者のうち12名が女子生徒でしたが、男子生徒も頑張って下さい。

今年初めて審査員を経験しましたが、発表を聴いて清々しい気持ちになりましたし、「三重県の中学生は素晴らしい」と改めて感じた次第です。中学生の皆さん、これからもそれぞれの学校で勉学に部活に励み益々成長され、次代の三重県を担う人材になっていただくことを心より期待いたしまして、講評とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

【審査委員】　志田行弘(三重テレビ放送株式会社　代表取締役社長)

《文章力と読書》

文章力は読書の量に比例すると思います。何の本を読むにしろ、著者が長い間かかって勉強したこと、研究したこと、経験したことのエッセンスが書かれてあり、それは素晴らしい知識の塊をそっくり頂戴することに他なりません。但し、読むということは、その本の内容をしっかりと理解することも肝要です。理解力が必要です。いろんな方面の基礎的な知識・教養の土台があれば理解も深まり、内容が身につき易いのですが、それが不充分な時は、解らないままに、何度も何度も読み返すことです。昔から「読書百遍 意自ずから通ず」といいます。不思議と本の意味が解るようになります。

そして沢山の本を読めば、自然に文章力は身に付きます。

文章にした言葉をうまく相手に、聴く人に伝える話術も大事です。文章にしたことを充分に理解し、自信さえ持てば、これ又、自然に言葉として出てくるものです。人の心をつかみ、感動させるように話が出来るようになります。

読書とは、本を読むことばかりではありません。一番いい方法は、毎日、毎朝、新聞を読むことです。好きな頁ばかりでなく、一面の政治、そして経済、文化、スポーツ、社会の出来事と続きますが、ひとつの新聞を全部読む習慣をつけることが、あなたの教養、知識の源泉になることでしょう。

学校の図書室で新聞を２紙、３紙と読み比べれば、もっともっと、知識ばかりでなく人間性豊かな、あなたの人格も高まると思います。

さあ、新聞を読み、本を読みましょう。

【審査委員】　西　孝(三重大学社会連携研究センター　特任教授)

《中学生への応援メッセージ》

会場で中学生たちの考えに触れ、40年以上前の頃に引き戻された。悩み、それにポジティブに対応する、柔軟でみずみずしい感性に触れ、若さの強さ、可能性を改めて感じさせられた。13名の発表者だけでなく、運営に協力した紀北町の２中学校、尾鷲中吹奏楽部、ポスターデザインをした生徒たちの活躍が、その思いをもたらしたことは間違いない。

メッセージの内容は、病の体験、家族の認知症や死、放置ペットの処分、母親の労働の是非、身体的コンプレックス克服など、身近な問題を自分で考えたり、家族と相談しながら乗り越えたりするものであった。身近なテーマを一般化するなど、テーマにしっかり取り組む姿勢が感じられて好感が持てた。発表の巧拙は、学校や家族の指導、アドバイスの有無に左右されるところもあろう。中学生の可能性と同時に教育指導の重要性も感じさせられた。可能性を大いに顕在化させ、高く羽ばたかれることを期待しています。

【審査委員】　鳥井　隆男(三重県健康福祉部子ども・家庭局　局長)

初めての審査で緊張して会場に入りました。身振り手振りの真剣な中学生の発表からは、社会的課題や人生について鋭い本質の問いかけと、これからのそれぞれの行動についてたくましい決意が表れていました。

三重県の未来は明るいぞと思う反面、発表内容の濃さに比較し発表の声や態度と熱意によって、自分の納得感や共感度が大きく影響されることを発見しました。

私たちが人にメッセージを伝えるとき、その伝えたい内容はもちろん重要ですが、声や表情などの態度とともに相手を見て語るなど、より説得しやすいことをあらためて気づいた大会でした。

中学生の皆さん、これからも社会や将来のこと、家族や地域のことなど日頃感じたことを、友人や家族、地域の人にしっかりと伝えて欲しいと願っています。

【審査委員】　二村　直司(尾鷲市教育委員会　教育長)

《感心・感動・感謝！》

発表の舞台に立ったみなさんのみずみずしい感性やものの見方に感心し、またシャープな切り口で自分の意見を堂々と語るその姿勢と豊かな表現にたいへん感動いたしました。

そして、すばらしいドラマチックな場を準備し運営していただいた関係者のみなさま、発表の舞台に向け温かく見守り支えてこられた家族や仲間、先生方に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

多感な中学時代の学びや体験から生み出されてきた主張は確かな未来を予感させるものばかりでした。さわやかな気持ちと元気をいただきました。

【審査委員】　大西　学(三重県小中学校長会幹事／多気町立多気中学校長)

初めて審査員として大会に参加をさせていただきました。13名の中学生が、自らの体験をもとに元気に主張をしてくれました。

私たち大人にも考えさせられることも多く、「中学生のメッセージ2013」にふさわしく、会場のみんなにメッセージを届けてくれました。

事前に作文を読ませていただきましたが、中学校での審査、地域優秀選考会、中央審査会を経てきたということで、いずれも甲乙つけがたい素晴らしい作品ばかりでした。

当日の審査において、作文を読むだけでは、内容がよくても訴える力は弱く、「少年の主張」のとおり、如何に会場の聴衆に訴える「スピーチ」ができたかが重要であったと思います。

（鋭い感性をもった中学生の主張を社会に発信していくこの大会のさらなる発展を願っています。）

【審査委員】　酒井　伸弥(三重県ＰＴＡ連合会　常任幹事)

まずは、最優秀賞をはじめ各賞を受賞されたみなさん、おめでとうございます。

7,788名の応募作品の中から厳選された13名の作品でしたので、読ませていただいた段階では、すべての作品において遜色つけがたい状況でした。テーマがさまざまでしたから、それぞれの子どもたちがそれぞれの思いで考え、書き綴られたんだろうな、という気持ちも伝わってきました。

その中でも特に、最優秀賞に選ばれました山本さんは、まさに会場に参列された聴衆に訴えかけるような、言葉に抑揚をつけ語られかけた様子が大変印象的でした。また。文章だけで伝える場合と直接自分の言葉で訴える場合とではこんなにも違うものなのか、ということを改めて実感させていただきました。

今回入選されたみなさん、どうぞご自身が感じられているその思いを持って、これからの学業にも励んでほしいと思います。

本日は、誠におめでとうございます。

【審査委員】　八木　陽子(三重県私学協会／津田学園中学校教諭)

「日ごろ感じていることや考えていることを自分の言葉で訴える」というこの『中学生のメッセージ』の審査にあたり、私が注目したのは「中学生らしさ」でした。大人になってからわかることが増えたり、見えなかったものが見えたりするように、中学生という立場でしか感じられないことや、中学生だからこそ気付けるものがあると私は思います。

今大会の皆さんの発表は、まさしく「中学生らしさ」に溢れているものでした。言葉の表現の一つひとつや、話のまとめ方、さらには思うことや考えることは大人とは

異なり、私自身も発表を聴きながら、今の自分と中学生の時の自分との違いを感じることもありました。

今大会の審査員を務めさせていただいたことは、私にとっても学ぶことが多く、大変貴重な経験となりました。発表者の皆さん及び今大会の関係者の皆様方に深くお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

【審査委員】 大西　義人(三重県教職員組合　中央執行副委員長)

13名の中学生のみなさん、すばらしい発表を届けてくれました。審査員ではなく、一参加者として座っていられたなら、もっと感動に浸れたのではないかと思われてなりません。それだけ一人ひとりのメッセージ内容の新鮮さと考えの深さに驚きを覚えたことは確かです。自分の思いや考えをたくさんの人たちに伝えるには、聴く側の心の琴線にふれるスピーチ力が必要です。その力をつけるには、やはり練習と経験（場数を踏む)が必要です。13名の中に2年連続の生徒が一人いましたが、昨年と比べると比較にならないほどスピーチ力が高まっていました。彼女なりに努力した成果だと思います。中学生のみなさん、自分の可能性を信じて、そして夢に向かってチャレンジしていってください。これが私からのメッセージです。

【審査委員】水元　正(公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団　副理事長)

中学生のメッセージ一つひとつの作品をとおして、自分の思いを文字に、文章にそして、壇上においての発表に感動を覚えました。

物事の真実はどこにあるのか、中学生から見た矛盾を的確に言いまわして、なんでだろうと疑問に思ったことを主張していた。

自分の体験からそれを乗り越え力強く、私はこう頑張った。苦しい時を乗り越えられたのは、周りのお父さん、お母さん学校の先生、友達、いろんな人たちのおかげで今の自分があることに気付かされ感謝の気持ちがあふれていること。

家族での会話の大切さ、コミュニケーションの大切さ、親、兄弟、先生、友達といろんなことも相談できることの大切さを自分の実体験から学び、実践していること。

中学生にとって、今何が大事でどうすればよいかを自分の考えをで、私ならこうしたいと主張したこと。

作文は一方向性でしか伝わりません。携帯、スマホ等も、一方向でしか伝わりませんが、言葉は、双方向性でしかも自分の思いを伝えることができ、感情等をいかに表現するかが大切であるということから、今回の順位が出てきたのです。自分の発する言葉に大切さを感じました。

開催チラシ

《表》

《裏》

表紙とチラシのデザイン画は尾鷲市立尾鷲中学校3年坪井佑里さんが描かれました。

坪井さんには、財団より感謝状を贈呈しました。

中学生のメッセージ2013(第35回少年の主張三重県大会)実施要項

1．目　的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として実施します。

2．主　催

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

3．共　催

三重県

4．協　力

青少年育成市町民会議

5．後　援

三重県教育委員会・尾鷲市教育委員会・紀北町教育委員会・三重県私学協会・三重県小中学校長会
三重県PTA連合会・三重県教職員組合・NHK津放送局・三重テレビ放送株式会社

6．大　会

期　日　　平成25年８月25日(日)
場　所　　紀北町立東長島公民館　大集会室(北牟婁郡紀北町紀伊長島区東長島915－2)

7．応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの。
※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、平成24年度在籍の３年生は応募できません。

8．応募内容

① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
② 家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友だちとの関わりなど。
③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

9．応募方法

(１)１人１点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議(以下、市町民会議という)等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。

(２)原稿用紙記入方法

・Ａ４版400字詰め原稿用紙３枚半以上４枚半以下で縦書きに清書してください。枚数不足や枚数超過については、審査対象外となるのでご注意ください。なお、大会での発表時間は５分程度となります。
・コピーではなく、本人直筆による原本(ワープロ不可・但し障がい等による場合は可)にしてください。
・原稿用紙にはHB以上の鉛筆ではっきり濃く記入してください(審査のとき、コピーをするため、濃さについては厳守してください)。
・原則的に１行目にタイトル、２行目に県名・学校名・学年・名前、３行目に発表者の名前、４行目以降に本文という書式にしてください。但し、学校名等が長い場合はこの限りではありません。
・原稿用紙(様式)は別紙１を参照してください。コピーをして記入していただくことも可能です。

(３)各学校等において３点以内に選考し、応募作品一覧（別紙2)を添付のうえ、下記提出先に提出してください。

(４)提出先・提出期限

・各中学校等は、平成25年６月７日(金)までに当該地域の市町民会議に提出してください。市町民会議は作品を取りまとめ、６月12日(水)までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という)へ提出してください。
・市町民会議の連絡先については、別紙３を参照してください。

10．地域優秀作品審査会

地域優秀作品審査会は育成財団で行い、提出された作品の中から40人程度を選考します。

11. 中央審査会

中央審査会は育成財団で行い、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成し、提出された作品の中から「中学生のメッセージ」で発表する14人と地域優秀者26人程度を選考します。なお、発表者へは7月上旬に連絡します。

12.「中学生のメッセージ」における発表及び審査

（1）大会発表者は「中学生のメッセージ」において、自らの作文をもとに発表します。また作文をもとにした発表方法に加えて、パフォーマンス（写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等）を取り入れてもよいこととします。なお、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

（2）大会当日、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成する審査委員会で審査を行い、各賞を決定します。

（3）審査基準は以下の通りです。

【論旨】

① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
② 新しい情報や視点があるか。
③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調】

① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
② 説得力のある話し方であるか。
③ 話しぶりに熱意と迫力があるか。

【態度】

① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

13.「少年の主張全国大会」への推薦

「中学生のメッセージ」の最優秀者は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者（中部・近畿ブロック審査応募作品）として推薦します。ブロック代表者（各ブロック2～3人）に選ばれた場合は、東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表していただきます。

14. 表彰

県大会の審査委員会で審査のうえ、「最優秀賞」（１人）、「優秀賞」（３人）、「優良賞」（10人）を決定し、賞状と副賞を贈呈します。また、大会発表者以外の地域優秀者には「地域優秀賞」として、賞状と副賞を贈呈します。また、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上とする）に「学校奨励賞」として賞状と副賞を贈呈します。なお、作品応募者全員には、参加賞を贈呈します。

15. その他

（1）応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。

（2）大会前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。同様に、大会後、大会の結果、発表作品（最優秀賞）、発表者・入賞者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。

（3）大会後、大会発表者の発表作品や写真を掲載した発表作品集を作成し、県内中学校や関係機関等に配付します。その他、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

（4）当事業に協賛いただける企業・団体を募集します。協賛いただいた企業・団体にはパンフレット、広報誌、作品集等で名称を紹介させていただきます。

16. 問い合わせ先

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
〒515－0054　松阪市立野町1291　みえこどもの城内
TEL：0598－23-7735　FAX：0598－23－7792　E-mail：ikusei@mie-cc.or.jp

【少年の主張全国大会　～わたしの主張２０１３～】 内閣総理大臣賞

忘れないために

宮城県気仙沼市立小原木中学校３年　梶　川　裕　登

皆さんは、以前の気仙沼の街並みを思い出せますか。僕は、はっきりと思い出すことができません。今の景色を以前からあった景色として錯覚してしまっているのです。

それに気付いたのは、小原木中学校での活動からでした。

小原木中学校では、海抜表示プロジェクトを行っています。その場所が、海抜何Mなのかを調べ、電柱など見えるところに、このような表示板を取り付けていきます。海抜を意識し、どの高さまで逃げればよいのか、参考にしてもらおうと、考えたプロジェクトです。

調べてみると、小原木中学校は海抜70M。気仙沼高校は、40.5M。市立病院は13.8M。船着き場は0.8Mでした。僕が住む只越地区の津波の最大値は27.6M。海抜5.2Mしかなかった僕の家は、残念ながら、もうありません。

僕達はまず、表示板を中学校のある舘地区に取り付けました。この地区は、ほとんど海抜20M以上で、被害の少なかった場所です。次にとなりの大沢地区への取り付け。ここは海と少し離れていても多くが海抜２M程度で大きな被害のあった地区です。取り付け作業の中で、僕は、変わり果てたこの地区の姿を見ながら、言いようのない不思議な感覚に襲われていきました。それは、草が生い茂る、何もなくなったこの景色を見ても、全く違和感を感じなくなっているのです。それどころか今の景色にすっかり慣れてしまった自分がそこにいるのです。あたかもこの景色は、僕が生まれる前からずっとこうだったんだと。いや、それは違う。こんな姿ではない。ここには僕の友達の家があって、漁港から見える海は、もう少し遠く、低くて、コンビニはここにはなかった。かつて過ごしてきた風景が、僕の頭の中から薄れていってしまう。取り付けをしながら、何が以前で何が今なのか、何が変わって何が変わっていないのか。

その後、何かに誘われるように、かつての自分の家があった場所に、行って見ました。今残っているのはコンクリートの土台だけ。ここで生活の営みがあったなんてこれぽっちも感じられません。でも、この景色にも何の違和感を感じない自分がそこに立っていました。ここには、皆で笑った家があったはず。地域があったはず。そして、笑顔のおじいさんがいたはず。でも、もう……震災から２年あまりしか経っていないのに、10年以上も暮らした環境を、感覚を、失いつつある自分がいたのです。僕を今まで育ててくれた、この温かな場所を心の片隅から消しさってしまうのかと、自分自身がとても怖くなりました。

人は忘れてしまうもの。慣れてしまうもの。悲しみの中にいつまでもいてはいけない。切り替えて前に進まなくてはいけない。辛いけど、震災があったことを、そこに町があったことを、僕たちは忘れず、伝えていかなくてはならないと、思うのです。

「忘れないために」その一つの手立てが、海抜表示プロジェクト。地域を回り、そして伝える。

僕は、これからも、ここにどんな人達が住んでいたのか、どんな町があったのか、そして震災で、どんな被害を受けたのかをしっかりと後世に伝えていきたいと思っています。それが、海と一緒に生活していく僕たちの役目だと思っているから。

協賛企業・団体紹介　※順不同

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

中学生のメッセージ２０１３
（第35回少年の主張三重県大会）

平成26年２月

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団
〒515－0054
三重県松阪市立野町１２９１　中部台運動公園内
ＴＥＬ　０５９８－２３－７７３５
ＦＡＸ　０５９８－２３－７７９２
E-mail　ikusei@mie-cc.or.jp

毎月第3日曜日は「家庭の日」

財団では、「家庭の日」に家族のきずなや、家庭を支える大切さなどの理解を深めるために「家庭の日」絵画・ポスター展を実施しています。

2014(平成26)年度 カレンダー

平成25年度 知事賞 小学生(低学年)の部

とうちゃんのぶどうばたけ

松阪市立伊勢寺小学校　2年　佐久間　琳大朗さん

April　4　卯月うづき

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

May　5　皐月さつき

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

June　6　水無月みなづき

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

July　7　文月ふみづき

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

26年度作品募集開始

August　8　葉月はづき

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

September　9　長月ながつき

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

作品募集〆切り

平成25年度 知事賞 小学生(高学年)の部

松阪市立阿坂小学校　6年　沼田　芽依さん

おばあちゃんのキュウリは最高です

October　10　神無月かんなづき

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

November　11　霜月しもつき

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

平成25年度 知事賞 中学生の部

みんなも作ろう「家庭の日」

松阪市立殿町中学校　3年　南　佳澄さん

December　12　師走しわす

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

表彰式

January　1　睦月むつき

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

February　2　如月きさらぎ

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

March　3　弥生やよい

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

三重県では、毎月第３日曜日を「家庭の日」として、明るく楽しい家庭づくりを進めています。<三重県青少年健全育成条例>

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団（三重県立みえこどもの城）

「家庭の日」絵画・ポスター展　ホームページ　http://www.mie-cc.or.jp/ikuseihp_katei/index.html